

自然博物館
ニュース

A・MUSEUM

ア・ミュージアム

創刊号 vol.1



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館



ごあいさつ

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、関東の原風景といわれる「谷津田」や、クヌギやコナラの「雑木林」が残されている菅生沼周辺の豊かな自然を生かしてつくられております。

本館では宇宙、地球、自然、生命と続く『地球の自然』の成り立ち、自然界の仕組みや自然と人間のかかわり、本県の自然の特色など、触ったり、動かしたりして、楽しみながら学ぶことができます。

また野外施設は、広いフィールドを利用し自然とふれあうネイチャーゲーム、ネイチャートレイル等の野外での体験を通して、本館で学んだことを、その目で、その耳で、その肌で、生きた自然を感じていただき、人と自然とが共に生きることの大切さを理解し、豊かな感性を養う場になってほしいと考えております。

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、従来の博物館のイメージを一新し、誰もが親しめ、誰もが楽しめるA・MUSEUM (Amusement+Museum) をめざしています。

ぜひ、ご家族そろって、またはお友達とおいで下さい。



館長

中川 志郎

宇宙・地球・生命・自然……。 46億年の時間の旅を体験しよう！



ミュージアムコンパニオン
私たちがご案内いたします。

展示には常設展示、企画展示、野外展示の3種類があります。

常設展のひとつ「シンボル展示」は、“時間と空間の旅人”をテーマにしています。もうひとつ「総合展示」は、宇宙という壮大な世界から地球上の生命という小さな世界、そして環境問題までを5つのテーマでわかりやすく展示したものです。この2つに加え年に4回開催される企画展示があります。そして従来の博物館にはなかった野外の「生きた展示」で、自然とふれあい、何かを発見して下さい。



暗天ジオラマ

④ 進化する宇宙

暗闇の世界の宇宙と、宇宙船をイメージした展示室で、宇宙の誕生から太陽を取り巻く惑星、生命の星地球について紹介します。宇宙船に乗り組み、火星と金星の上空を飛んでいる体験や、本物の隕石を持ち上げたりもできます。そして最後には、生命を宿した惑星「地球」が私たちにとって、かけがえない星であることがわかっていただけると思います。

講堂兼映像ホール

285名を収容するこのホールでは、映画会や講演を行うほか、各団体のオリエンテーションなどにも利用できます。



シンボル展示

エントランスロビーから展示室へ向かう通路で、世界最大の松花江マンモスがみなさまをお迎えいたします。その足もとを通りぬけると、大きな吹き抜けの空間に宇宙・地球・自然・生命を展示テーマとしたシンボル造形群が漂い、時間の旅の始まりとなります。

自然のしくみ

地球のおいたち

[3F]



恐竜たちの生活

⑤ 地球の生いたち

はじめに、地球を覆うプレートとその運動による大陸の動き、オーロラ等の自然現象、いろいろな特徴を持った鉱物について紹介いたします。

そして、地球の生命の歴史について、生命の誕生・海の世界のタイムトンネルをぬげ生物の上陸、は虫類の時代を経て、哺乳類の時代にいたるまで生命の進化についてを紹介いたします。

あなたも、タイムスリップして恐竜の生活をのぞいてみませんか。

[2F]

ディスカバリープレイス

シンボル展示

[1F]



平地林の生態

③ 自然のしくみ

地球上のさまざまな生き物や身近な生き物・植物についての、環境による生態系の違いを観察できます。

山地林・平地林の生態系では、それぞれ茨城県の花園山の山地林、筑波山麓の平地林がモデルになっています。また、水の生き物コーナーでは、久慈川水系（上流から磯まで）の生き物の生きたままの様子を水槽とおして観察できます。そして、最後のコーナーでは、「潜水艇いばらき号」に乗り込み、茨城の海や世界の海の海底探索を体験できます。



筑波山の地質

② ディスカバリープレイス

茨城県は海が暖流と寒流がぶつかるところで、気候的にも冷温帯と暖温帯の境目となります。そのため、南限北限の生物が数多く見られます。それらの生物や天然記念物、筑波山の動植物などの茨城の自然の姿を紹介いたします。

観察コーナーでは野外で見つけた動植物をバイオスキャナーや顕微鏡で観察できます。また、図書館では動植物図鑑等も貸し出ししますのでご利用ください。



半開水生生態系モデル

① 人間と環境

これまで私たちは、生活の豊かさを求め、そのためにたくさんの「自然環境の破壊」という代償をはらってきました。一度壊された自然を元に戻すには何十年、何百年もかかるかもしれません。あるいは元に戻らないかもしれません。

私たち人間が、動物や植物に与えた影響と、その重大さを知っていただき、私たち個人がこれから何をすべきなのかを考えてみてください。



見る体験

⑥ 生命のしくみ

生きているということ……。それは身体の中で、さまざまなしくみが働いて、ひとつのものを動かしているということなのです。

例えば、動物の動きをまねて動くロボットがあります。簡単な動きでも機械に行わせることはたいへん難しく、複雑な装置が必要です。日頃考えることのない生命のすばらしさ、不思議さについて考えてみてください。

生きた展示が大きな魅力。 ネイチャートレイルで 自然と一体になろう！

菅生沼に隣接する約16.4haもの広い敷地には雑木林や池・広場等が広がる、まさに「生きた展示」となっています。おもう存分自然を満喫してください。

ここでは自然の中の野鳥や昆虫、花木や岩石などを気軽に観察できる「ネイチャートレイル」や、身近な自然現象を遊びながら体験できる自然発見遊具などがそろっています。また、野外活動の拠点である自然発見工房では自然観察会などを行ったり、いろいろな観察道具の貸出しもしています。

菅生沼は野鳥の宝庫。菅生沼ふれあい橋ではコハクチョウやカモ類等170種類以上の四季おりおりの鳥が観察できます。



ツグミ



カントウヨメナ



ショウリョウバッタ



トンボの池と反町開門橋



古代の広場



自然発見工房



自然発見器



菅生沼ふれあいの橋



開館記念特別展『サーベルタイガーの世界』(11/13～1/16)

ロスアンゼルス郡立自然史博物館とその分館のジョージC. ペイジ博物館の協力で、恐竜とならんで人気の高いサーベルタイガーが生きていた数万年前の世界を再現します。

数万年前のロスアンゼルスには、地層の割れ目から原油がしみ出てタールの池ができていた所がありました。このタールの池は、水が溜っていたり、木の葉や砂などが薄く積もっていて、見た目にはただの水溜りや大地のようにみえました。ここに水を飲みに来た動物や、これを襲う肉食性の動物がこのタールの罠にかかり命を落としました。ここからは、2,000体を超えるサーベルタイガーやオオカミ、ラクダ、バイソン、インペリアルマンモス、マストドン、オオナマケモノ等の哺乳類や鳥類、爬虫類、昆虫、植物等数多くの化石が発見されています。



開館記念イベント

ネイチャーゲームのつどいの参加者募集

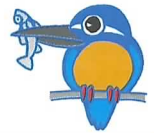
日時 平成6年11月23日(水) [勤労感謝の日]
 午前の部 10:00~12:00
 午後の部 13:30~15:30
 ※雨天決行
 場所 自然発見工房
 対象 小学生以上
 定員 申し込み先着100名(午前50名、午後50名)
 参加の方法 事前に電話で申し込んで下さい。
 参加料は無料です。
 問い合わせ 申し込み先
 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 教育課
 電話 0297-38-2000代

「恐竜Q&Aのつどい」

開館記念メモリアルイベントとして、小中学生を対象としたシンポジウムを下記により実施します。
 開催日時 平成6年11月20日(日)
 午前10時~11時30分
 場所 講堂兼映像ホール(本館3F)
 総合司会 ヒサ クニヒコ氏
 パネリスト 岡崎美彦氏、鈴木直氏、伊藤恵夫氏他
 多くの皆様の参加を待っています!

バードウォッチングのつどい

日時 平成6年12月4日(日)
 午前9時30分~12時
 場所 菅生沼周辺
 対象 一般



博物館行事案内

〈自然講座〉

対象 一般(高校生以上)
 平成6年12月18日(日) 航空写真による茨城の地形
 平成7年1月8日(日) カモ類の見分け方

〈自然教室〉

対象 小中学生
 平成6年12月10日(土) 昆虫の冬越し
 平成7年1月14日(土) 木の幹肌観察

〈自然観察会〉

対象 一般(どなたでも参加できます)
 平成7年1月29日(日) ブランクトンの観察
 ※自然講座、自然教室、自然観察会は、事前にハガキでの申し込みが必要になります。
 (定員各40名)

〈映画会〉

平成6年11月27日(日) (午後2時~) 「雑木林の四季」(邦画) ……32分
 平成6年12月23日(金) (午後2時~) 「アジア・オセアニアの動物達」(邦画) ……30分
 平成7年1月15日(日) (午後2時~) 「南極物語」(邦画) ……143分

友の会会員・ボランティア募集中

友の会に入ると、常設展の無料入場をはじめ、いろいろなメリットがあります。博物館をたっぷり楽しみたい方は、是非友の会へ。年会費は子ども会員(千円)・個人会員(三千円)・家族会員(四千元)・賛助会員(一万円)。また、博物館に協力していただくボランティアも募集しています。友の会やボランティアについてのお問い合わせは博物館まで。

—フォト、質問の募集—

博物館ニュースに載せる自然や環境に関する写真やイラストなどを募集します。また、みなさんからの自然、生き物などの質問に当館の職員がお答えする「Q&Aコーナー」へのご協力、ご参加をお願いします。

ご利用案内

〔交通案内〕



●常磐自動車道、谷和原ICから約15分



〔入館料〕

区分	本館・野外施設	野外施設のみ
児童生徒等	100円(50円)	50円(30円)
学生等	300円(200円)	100円(50円)
大人	500円(400円)	200円(100円)

(注)：()円は団体料金(20人以上) 企画展開催期間中については、別料金となります。11月13日(日)は県民の日につき、入館料は無料です。

〔開館時間〕

午前9時30分から午後5時まで
 (入館は午後4時30分まで)

〔休館日〕

- 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
- 平成6年11月14日(月)は開館いたします。
- 12月27日(火)から1月4日(水)まで

〔鉄道・バス〕

(水戸・東京方面から常磐線利用の場合)

(東武野田線) (茨城急行) (徒歩)
 JR柏駅 24分 愛宕駅 20分 七郷支所前 10分 博物館(54分)

(常総線) (開鉄バス) (茨城急行) (徒歩)
 JR取手駅 30分 水海道駅 20分 辺田三叉路 10分 自然博物館入口 10分 博物館(1時間10分)

(笠間・下館・結城方面から水戸線利用の場合)

(常総線) (開鉄バス) (茨城急行) (徒歩)
 JR下館駅 55分 水海道駅 20分 辺田三叉路 10分 自然博物館入口 10分 博物館(1時間35分)